

スクールハラスメントとは

学校内で起こるハラスメントのことです。

生徒間のいじめ、先生と生徒、先生同士でも起こります。

暴力や威圧、嫌がらせ、金品の要求、物を隠す、性的言動などの「わかりやすい」ものだけでなく、仲間外れや無視、行き過ぎた指導、無意識に出される「性の違いに基づく差別的な言葉」など、気づきにくいものも含まれます。

スクールハラスメントの種類

差別的な扱い、虐待、いじめ、誹謗中傷、無視、性的な発言や行動、過度な叱責、侮辱、暴言、強要、プライバシーの侵害など色々な種類があります。私たちは、人格否定や、人間の尊厳、権利を侵害する「ハラスメントを絶対に許してはいけない」という強い意識を持たなくてはなりません。

代表的なハラスメント

セクシャルハラスメント

性的な話題、体型・容姿へのからかい、性別による決めつけ、不必要な接触、つきまとい、性的な質問や冗談など。

パワーハラスメント

殴る・蹴るなどの身体的攻撃、大勢の前で恥をかかせるような大声の叱責、脅し、名誉や人格を傷つける言動、仲間外れ、無視、過度な干渉や監視など。

モラルハラスメント

見下す態度や否定的な言動、孤立させる行為、SNSでの無視・陰口、情報の拡散、長時間の不当な指導、からかい、危険行為の強要、私的なことへの過度な立ち入りなど。

スマホハラスメント

GPSやアプリを使った過剰な監視、盗撮や録音の拡散、しつこい連絡や要求、SNSでの誹謗中傷、個人情報や虚偽情報の拡散、SNSを使った仲間外しなど。



スマホがハラスメントの入り口になることも…



ハラスメント?と感じたら…

まず大事なのは気づくこと

嫌だ、不快だと感じたら、それはハラスメントです。まず「自分はハラスメントを受けている」と認識しましょう。

ハラスメントは、する側もされる側も「気づかない」ことがあります。「冗談」「相手のため」と思い込んでいる場合や、力関係があるため「仕方ない」と感じている場合もあります。

ハラスメントを無くすには

① ハラスメントを知ること

自分が気づかずに誰かにしている場合もあります。何がハラスメントに当たるのか、知り・考えることが大切です。

② ハラスメントをされたと思ったら

我慢では解決しません。
「自分は悪くない」と認識し、声を上げる勇気を持ちましょう。

③ まず距離を取る

身体的・心理的な距離が近すぎると、起きやすくなります。まずは離れることが効果的です。

④ 具体的に伝える

「嫌です」、「やめてください」と明確に伝える。
相手が気づいていない場合があるため、相手の具体的な行為を指摘することが大切です。

学校でのハラスメント

スクールハラスメントについて知っておこう

放置するとどうなる?

加害者は、「自分の言動は正当で、相手が傷つくのは、被害者側に問題があると考えている」とすらあります。加害者側が「自分の言動は人権侵害行為」と理解し、周囲が「ハラスメントが起きている」と認識しなければ、どんどんエスカレートしていく傾向にあります。

また被害者は「自分が我慢すればいい」と諦めてしまい、被害者本人が「ハラスメントされている」と認識できなくなることすらあります。このような日常的なハラスメントは、その存在自体が、表に現れない場合が多く、何度も繰り返されたり、内容や回数がエスカレートしたり、長期化したり、酷くなっていくこともあります。

⑤ 我慢しない

声をあげずに我慢すると、エスカレートしていくこともあります。

⑥ 周囲に知らせる

「ハラスメントを受けている」と多くの人に伝えることで、問題を見える化できます。一人で解決するのは難しいものです。また相手が反発する可能性もあります。その時は、すぐに「信頼できる誰か」に相談しましょう。（「信頼できる誰か」が、すぐに見つからない時の相談先は、裏面にあります。）

⑦ 記録を残す

いつ、どこで、誰に、何をされたか（いわれたか）を細かくメモしましょう。スマホのスクリーンショットや録音も有効です。これらは、あなたを守る証拠になります。

“自分には関係ない”にしない

自分が被害者でなくても、気づいたら声を上げることが重要です。多くの人が認識することが、拡大や長期化を防ぎます。

5W1H
いつ・どこで・誰に・何をされたか



※学校で起こる人権侵害のうち、「児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」を、「いじめ」と定義し、先生から生徒、生徒から先生、先生同士で行われる、嫌がらせや人権侵害行為の全般を、「ハラスメント」と整理しています。

大事なのは個人の問題とせず、
学校全体の問題として考えること!

ハラスメントは受けた個人だけの問題ではありません。
学校という社会全体でハラスメントの存在を認識し、原因を追究し、予防と対策を講じるべきものです。
気づいたら声をあげ、安心して過ごせる学校を、みんなで作っていきましょう。